

## 静岡ロボットファクトリー 「レスコン2025」で全国優勝!



### ゼロからの再構築でつかんだ全国優勝

人命救助ロボットの技術やチームワークを競う「レスキューロボットコンテスト2025」で、静岡大学ロボットファクトリーが7年ぶりの全国優勝を果たし、最優秀賞のレスキュー工学大賞を含む4賞を同時受賞しました。コロナ禍で先輩からの技術継承が途切れた状態からの再出発でしたが、基礎から学び直し、時間をかけて高い制作技術を取り戻しました。勝因は、「得意分野を生かして設計・製作・調整を効率的に分担したこと」「ロボットを早期に完成させて操作練習と安定化に時間を十分かけたこと」「前大会での課題を一つずつ改善していったこと」です。

### ものづくりの楽しさを実感

限られた時間の中で試行錯誤を重ね、失敗を糧に心身ともに鍛えられながら、ロボットの完成度を高め、ものづくりの楽しさを実感しました。



大学祭でもロボットを展示

大会で活躍したロボットは、展示会やテクノフェスタ(大学祭)、地域の図書館などで展示し、多くの人に体験していただき、ものづくりの魅力を伝えています。

### チーム一丸で挑戦する楽しさ

学業との両立や意見調整には苦労しましたが、先輩への指導や話し合いを通じチームとして成長できました。大切なのは結果だけでなく、挑戦して学ぶ過程。失敗と改善を重ねて問題解決力や団結力が高まりました。今後は、技術の蓄積と継承に力を注いでいきたいです。



# 見つけた! 輝く静大生

部活動、研究、地域との連携...それぞれの

場所で挑戦を続ける静大生をご紹介します。

## NHK全国大学放送コンテスト 「映像CM部門」で第2位



放送研究会「Cue-FM浜松」の作品が第42回NHK全国大学放送コンテスト「映像CM部門」で94作品の中から全国第2位を受賞しました。放送・映像分野における国内有数の大会で、高い企画力、表現力、そして確かな技術力が全国レベルで高く評価されました。

受賞作には、「見方を変えて、物事を前向きに捉えれば、状況が好転し、味方になる」というメッセージが込められています。



見方 を変えたら の味方

## 工学部・能見研究室 衛星との交信に日夜奮闘中



STARS-Me2(蓬莱)  
2025年9月に国際宇宙ステーションから放出された「蓬莱」は現在、通信不具合に直面しています。

工学部・能見公博研究室では、超小型人工衛星「STARS-Me2(愛称:蓬莱)」の開発から運用までを学生主体で進め、設計・製作、地上局整備、通信解析の一連の流れを実践的に学んでいます。

宇宙空間でアンテナを展開し、電波信号を送信する設計ですが、信号を確認できない状況です。

学生たちは、宇宙空間の衛星を直接確認できない中、作動を促す指示の送信を試したり、他機関と連携した光学観測で衛星の状態を把握したりしながら昼夜を問わず通信復旧に挑んでいます。

研究室では、本件以外にも複数の人工衛星開発を担っており、少人数で力を合わせながら責任ある運用と課題解決に取り組んでいます。



「蓬莱」開発メンバー



## 静岡市の審議会から認定 「スポーツ&健康」まちづくり



グローバル共創科学部 杉山康司研究室は、静岡市スポーツ推進審議会がスポーツを生活に取り入れる活動を進める企業や団体を認定する「静岡型スポーツ・イン・ライフ推進パートナー」の認定を受

けました。杉山研究室が取り組んでいるのはウォーキングを軸とした「大谷・小鹿周辺ウェルネスシティづくり」です。これまで大谷・小鹿地区を中心に、地域の方々と協力しながら、ウォーキングコースの調査・提案、マップ作成、体力チェック、ニュースポーツ体験会などを学生主体で実施してきました。今後は、マップを掲載した体力チェック手帳の活用、ウォーキング・スポーツリーダー育成など、持続可能な支援体制の確立を目指し、地域連携による健康まちづくりをさらに発展させていきます。



体力チェックを実施



ウェルネスエリアMAPを作成



## 挑戦の歴史を受け継ぐ 山岳部が100周年記念企画展



### 山と向き合う喜び

山岳部では、登山やクライミング、沢登りなどを通じ、日々山と向き合っています。やりがいは、この部でしか見られない景色に出会えること。自分の足で山頂に立つことは何事にも代えがたい喜びです。厳冬期登山の完遂を年間の目標とし、体力作りや知識・技術の習得に加え、南アルプスや読図が必要な深南部での山行を通じて各自が目標を持ち挑戦しています。



### 100年の歩みを迎える企画展



旧制静岡高校旅行部の創立からの足跡を迎える企画展をOB組織「紫岳会」と現役部員が協力して開催

1923年に前身組織が創設された山岳部は、2023年に100周年を迎えました。コロナ禍による延期を経て、2025年10月に100周年記念特別企画展「ヒマラヤ 未知への挑戦の足跡」を開催しました。海外遠征をはじめ、先人たちの挑戦の記録を紹介し、歴史ある部の歩みを振り返る貴重な機会となりました。

### 歴史を受け継ぎ、未来へ

長い歴史の中で受け継がれてきたのは、登山技術だけでなく「一人のアルピニストとして自立する」という考え方。OB組織「紫岳会」が技術指導や合同での山行を通して知識や経験を次の世代に伝えていきます。大学生という限られた時間の中で山と向き合い続ける部員たちの挑戦を、これからも温かく見守っていただければ幸いです。



OBを交えた雪上訓練

